エッセイ

陰謀説ってホント？

真野　信治

一、ナショナルジオグラフィックの記事

私は、ナショナルジオグラフィックの愛読者であり、特に歴史に関しての特集は必ず目を通しています。先日、ビジュアルストーリーとして『世界の陰謀論』という本が出版され、これは前刊の『世界の秘密都市』に続いてのシリーズものであろうかと思われます。中身は「科学の陰謀」、「政治の陰謀」、「歴史のミステリー」などの章があり、ネット時代になってもなお色褪せないこれらの陰謀論は人々の好奇心をかき立てていると言っています。最終章は「暗殺・行方不明・謀略」であり、「ケネディ大統領」、「ダイアナ妃」、「マリリン・モンロー」などの死を扱っています。その中で、ケネディ大統領の暗殺については、マフィアやCIA、旧ソ連、キューバなどが関与していると考える陰謀論者が現在でも多く存在し、関連書籍の発刊も後を絶たないようです。一方で、最近気になるのは、陰謀論に対し「陰謀はなかった」と主張する人々が急激に増えてきていることです。これらの主張は、ネット社会が到来して以降、今までは見聞き出来なかった様々な情報が入手できるようになったことが影響していると思われます。いわゆる「謎」と判別される事件に果たして陰謀は存在したのでしょうか？そこで誰もが知るケネディ暗殺事件を題材に、ちょっと呟いてみたいと思います。

二、ジョンFケネディの暗殺事件

第三十五代アメリカ合衆国大統領ジョンFケネディの暗殺事件について、繰り上げ大統領のリンドン・ジョンソンは事件を解明すべく、すぐにウォーレン委員会を発足させます。翌年、委員会は、逮捕されたリー・ハーベイ・オズワルドの単独犯行であると結論付けました。これに対し、アメリカ国民の七十パーセントがこの報告を信用せず、「事件には何らかの陰謀がある」と考えています。私も以前よりこの事件には興味があり、陰謀論者の著書数冊を通読しましたが、オズワルドのバックに実在しただろう何か大きな組織があったとの陰謀論は、自然に受け入れることが出来ました。特に、オズワルド以外に右前方のグラッシーノール（エルム通りの北にある芝生の丘）から狙撃したもう一人のヒットマンがいたと言う説は、その時点では非常に説得力がありました。加えて、一九九一年に公開されたオリバー・ストーンの映画『JFK』が公開されるに至って、CIAの関与を含め、陰謀があったことは決定的とまで言われるようになりました。

しかし、ここにきて暗殺事件に関する米国の公文書（ウォーレン委員会報告、下院暗殺調査委員会資料、CIA資料など）の一般公開が加速し、二〇一七年にはトランプ大統領により、CIA等が公開延期を求めた一部の資料を除く二八九一点の機密資料が公開されました。それにより、以前は知り得るべくもない実に細かいことが確認できるようになりました。そして、これを受けて陰謀論に懐疑的な書籍も出始め、これらを読むとどうやらオズワルドの単独犯行の可能性もありかなと思い始めてきました。やはり、ちゃんとした公の資料からわかる確固たる情報はそれなりに真実を語っているとも思われます。

三、犯人とされるオズワルド

逮捕されたオズワルドは、十代のころから共産主義者であったようです。そのためか、一九五九年にはモスクワに亡命しています。その前年には、日本の厚木基地に勤務しており、航空管制官をやっていたそうです。帰国後も、メキシコシティのソ連大使館・キューバ大使館を訪れたりするなど、不審な行動が目立ちます。事件当日、彼がテキサス教科書倉庫ビルの六階から大統領を狙撃したことは確実ですが、意外なほど早く指名手配され、映画館に逃げ込んだところをあっさり逮捕されます。確かにこの鮮やかな逮捕劇には違和感をおぼえます。ところが、収監された翌日にジャック・ルビーという男に射殺されてしまい、動機などを直接聴取することは永久に不

可能となってしまいました。陰謀論者は、このオズワルドがＣＩＡの末端組織、或いはキューバ人の過激組織などに属していたと言い、決して単独犯ではなかったことを主張します。さらに囮であった可能性を説く研究者もいます。

四、他に狙撃手はいたのか？

ウォーレン委員会は、オズワルドはケネディに向けて三発の銃弾を撃ち、初弾は外し、二弾目はケネディの首を貫通し、前席に座っていたコナリー州知事を傷つけ、最後の一発が頭部に命中し、それが致命傷となったと結論付けています。これに対し陰謀論者は、二発目の弾丸がケネディの首を貫通し、そこで大きく方向を変えてコナリーの胴と手首を貫通し、太腿で止まったという報告に対し、このような上下左右ジグザグな弾道があり得るはずがないとし、これを皮肉って〝魔法の弾丸〟と名付け、この二人への銃弾は少なくとも複数発であると主張します。そしてここから、ケネディに致命傷を負わせた頭部への銃弾は、被弾後に後ろへのけぞっていることから右前方のグラッシーノールから発射されたものだと言い、ここに複数の狙撃手の存在と、単独ではない組織的犯罪であることを強調しています。実は、ノールの狙撃手を見たという人は数人おり、ノールから銃声がしたと証言している人も多くいます。ウォーレン委員会もこの件は重要視し、何人かの市民から事情を聴取したようです。その中でも次の三人が有名です。「ノールにいた狙撃手を見た。その後、後方にいた相棒に銃を渡し、その相棒は銃をばらして箱にしまって逃走した。」と証言するエド・ホフマン。「ノールから五、六発の銃声を聞き、ノールに走る人を見て、自分もノールに走ったが、その際に警官らしき人と遭遇した」と証言するジーン・ヒル。「事件の瞬間、ノール方向をムービーカメラで撮影していた。ノールから逃走するロスコー・ホワイト（ダラス市警）を見た（彼がノールの狙撃犯だ）。」と言うベヴァリー・オリヴァー。

五、あてにならない証言

しかし、公開された複数の公文書をよく読むことで、彼らの目撃談は、誤認と偽証に溢れていることがわかります。まず、ホフマンはＦＢＩには、狙撃手の話はせず、木の柵が邪魔で何も見えなかったと証言を撤回しますが、一方で、後に「二人の狙撃手がいた」と言い出す始末で、とても信用がおける証人とは言えません。実は彼の父親が、息子は昔から空想と現実の区別がつかないと周りに洩らしていたという報告もあります。次に当日赤いコートを着ていたジーン・ヒルですが、午後に刑事裁判所に出向き、五、六発の銃声のこととシークレットサービスを名乗る男にポラロイドカメラを没収されたことを訴えましたが、三発しか撃たれていないと一笑に付されたようです。もちろん、カメラを没収されたことも後に嘘だと判明します。さらに数時間後のＴＶインタビューでは、銃声を聞いただけで撃った人は目撃していない、と答えています。そもそも彼女はノールへは向かっていなかったこともわかってしまい、全くあてにならない証言者だったわけです。最後に、オリヴァーですが、彼女もムービーカメラをＦＢＩ捜査官に没収されたと言っていますが、その捜査官は当時別の場所に勤務していたことがわかっています。ホワイトが狙撃者だという話も、ホワイトの息子であるリッキーが金目当てに彼女に嘘をついたことが証言の根拠だとわかりました。

このように全くあてにならない証人達ですが、逆に陰謀論者にとっては彼らの発言が絶好のネタとなり得たようです。つまり、ノールの狙撃手の実在は非常に怪しいのですが、その情報をいいとこ取りをして、狙撃手はいたと断定しました。その結果、世間は複数の狙撃犯、強いて言えば陰謀論を信じるようになってしまいます。いずれにしろ、陰謀論者が主張するグラッシーノールの狙撃手を確実に見たという証言は、結局なかったのです。因みにアメリカのあるＴＶ番組で、これらに関し実証実験をしたのですが、ノールの木柵から乗り出して銃撃するためには三メートル近い大男でなければならず、道路の逆サイドから撮った写真に軍服姿のヒットマンらしき男が写っているとスクープした別の番組に対して、最近のＩＴ技術を駆使して写真を拡大すると、何のことはないコーラの瓶が柵の上に置いてあっただけと言う笑える結果も出ています。そもそも、致命弾を浴びた瞬間の大統領車の位置

を考えると、ノールのすぐ右横まで来てしまっているので、そこから撃つと右前頭部から左前頭部に貫通する可能性が大です。したがって、右後頭部に孔を開けることは出来ません。このように、オズワルド以外の狙撃手の存在が否定されるようになったのは、いくつかの非公開文書が公開されたことが影響しているわけです。

六、〝魔法の弾丸〟のカラクリ

前述した、到底あり得ない上下左右ジグザグの弾道〝魔法の弾丸〟についても、そのカラクリがわかってきています。まず上下の位置について、ケネディは高いクッション席に座り、肘をドアの上に乗せ体を右斜め上に傾かせていたのですが、コナリーは低い補助席に座っていました。この上下の差は大きいです。次に左右の位置について、ケネディは聴衆に手を振りながら、半ば体を車外に出していましたが、コナリーは車内寄りに腰かけていました。これらはすべて委員会資料にて確認できますが、近年これに基づいてアメリカABCテレビが再現実験を行った結果、弾道はほぼ直線であったことが判明しました。併せて、血しぶきや骨片の飛散パターンなどもほぼ現実通りに再現されたことから、この弾丸が教科書倉庫ビル六階から来ていることが百パーセント証明されたと締めくくっています。つまり、陰謀論者の〝魔法の弾丸〟の弾道図は極めて不正確だったわけで、それにみんな騙されてしまったと言ったところでしょうか。

また、別に二つの実験結果を放映したTV番組もあります。三発目の致命弾が被弾した際、身体が後方に反り返ったように見え、これがグラッシーノールからの狙撃の根拠となっていました。ところが、後方の倉庫ビル六階からの狙撃を想定して実証実験をしたところ、同様の反応結果が出ました。つまり、後方からの狙撃で右頭部に命中するとその衝撃で体が後ろに反ることが証明されたのです。また、ノール方面から聞こえたとする銃声について、デイーリー・プラザ全体の建物状況を忠実に再現し、三発の銃声の音響実験をしたところ、この場所が一種の円形劇場のような立地になっているため、正面の高速道路の橋げたやノールの壁に銃声音が届くと同時に幾重にもこだまが発生し、聞いた人の立ち位置により様々な方向から銃声が聞こえた可能性があることも実証されました。やはり最近のテクノロジーの力は素晴らしいものがあります。

七、オズワルドとメキシコシティ

このように、最近のケネディ暗殺に関する論説やテレビ番組は、オズワルドが致命弾を含め三発の銃弾を撃ったことでほぼ間違いないというスタンスになりつつあります。他の狙撃手がいなければ組織的犯罪の実態も薄れ、黒幕の存在も非常に低くなります。そうなると、単独犯であるオズワルドの大統領暗殺の動機は一体何だったのか。この事を考える上で、最近公開された資料から非常に示唆的な情報が出てきています。

オズワルドは、事件の二カ月前にメキシコシティに行き、キューバ大使館、ソ連大使館を訪れています。これらはCIAの報告書によるものなのですが、陰謀論者は、オズワルドがソ連大使館でKGBの高官と接触したと推測し、そこからソ連情報機関の黒幕説を主張しています。ただ、それよりも重要なのは、オズワルドのキューバ大使館内での言動です。キューバへの移住を希望し、ビザ申請のため来館したオズワルドですが、却下されるとその腹いせに「おれは、このためにケネディを殺す！」とわめき散らしたということです。つまり、キューバとの関係を崩壊させたアメリカ大統領にその憎悪の念を向けたという事でしょうか。これは、新たに公開されたFBI文書にあるカストロ議長から聞き出した話の中の一部分ですが、FBI長官エドガー・フーバーの同意サインも記されています。多分、このカストロ談話の信憑性を検討した結果、信憑性ありと判断しフーバーも承認したのでしょう。これが真実であれば、オズワルドの直接の動機がこんなところにあったのかと驚きを隠せません。また、CIAやFBIはこの時点で既にオズワルドをしっかりマークしていた事もびっくりです。

八、ふたりのシルビア

さらに資料を当たると、オズワルドとキューバの関係は、実はこれだけではないこともわかってきました。大使館で接見した職員のシルビア・デュランと言う女性が、その後、大使館外でオズワルドを「ツイスト・パーティ」に誘った

という報告があり、そのパーティにはキューバ人外交官なども出席していたとのことです。シルビア本人はその件を否定し、大使館外では会っていないと証言していますが、シルビアの従姉妹であるエレナ・ガーロや娘のヘレナ及び甥のゲレーロは、そのパーティで間違いなくオズワルドを見たと証言しています。彼らがケネディ暗殺後に公開されたオズワルド映像を見て、パニックになったとゲレーロは後に証言していますが、無理もありません。こうしてみると、オズワルドがそのパーティでキューバ人関係者と接触していた可能性は非常に高いと思われます。多分シルビアは、何らかの理由でオズワルドと親密な関係になり、彼の主義主張を知った上でパーティへ招待したのかもしれません。ところで、ケネディ暗殺の翌日にCIAメキシコ支局がメキシコ政府に、このシルビアの逮捕状を請求し、一時収監されます。その時点で彼女に暗殺の共犯としての容疑がかけられていたのは確実でしょう。もちろん、本人は否定しましたが。

さらにもう一人、シルビアがいます。キューバからの亡命者で、ダラス在住のシルビア・オディオ。オズワルドがメキシコシティに向かう数日前に、反カストロ活動家の二人と共に会っています。活動家は、彼女にオズワルドを「特殊な射手で、ケネディ大統領は暗殺に値すると思っている元海兵隊員」と説明したようです。ここで何が話されたのかは不明ですが、その後のオズワルドの行動から、ある目的の為にメキシコ行きを勧めたことや、暗殺に向けた様々な計画を相談した可能性もなくはないのです。父親が亡命グループの中で有名人であったので、彼女の周りには常にこのような活動家が出入りしていたことはFBIの報告書に記載があります。やはり、ピッグス湾事件の失敗で、ケネディを恨む亡命キューバ人が多くいたのは事実なのでしょう。ただ、オズワルドは時として「反カストロ」であったり「親カストロ」であったりして、あてになりません。本人の中ではキューバの内政よりも、まず移住のことが重要だったのです。わからないのは、このシルビア・デュラン及びシルビア・オディオにつき、ウォーレン委員会は、証人として聴取しませんでした。CIAがデュランをスパイと見なしているにもかかわらずです。委員会にどういう裏があったのかは不明ですが、ジョンソン大統領は当時キューバと事を構えたくなかったと思われ、それが委員会にも浸透していたのかもしれません。

九、まとめ

以上がケネディ暗殺に関する諸研究の近況です。地元アメリカでは、徐々にオズワルド単独犯行説を信じる人々が増えてきたと説く研究者もいます。ただ、全く単独で成しえた犯行かと問われるとやや違和感をおぼえるのも事実ですが、資料を直接検分できるわけでもないので、ここで明確な結論は出せませんが、とりあえず新たな文書が公開されたことから、新たな解釈が出来るようになった点を中心にまとめてみます。

・オズワルド以外の狙撃手の存在につき、グラッシーノールからの銃撃があったとの説が多いが、最近のIT技術を駆使して実証実験を行うと、複数狙撃手は実在し得ない結論となる。

・加えて、〝魔法の弾丸〟と言われる二発目は、ケネディ、コナリーの座席位置を検証すると特に不思議なものでもなく、致命傷を負わせた三発目も、実験により倉庫ビル六階から撃ったと見なされる。

・陰謀論をかき立てるような証言をした人々について、ほとんどがいい加減な証言と判断された。つまり、陰謀論に合わせて証言をかえるなど、信用できない証人が多いことがわかる。

・CIAが関係文書の完全公開を拒否していることから、CIA陰謀説を説く研究者がいる。実際は、かなり以前からマークしていたオズワルドに簡単に暗殺を決行され、阻止できなかった責任を公にしたくないため、必要以上の公開を拒否している可能性がある。

・メキシコシティでオズワルドは、大使館外でキューバ関係者と面会した可能性がある。それを踏まえると、メキシコ行きなどの一連の計画は、ダラス在住の亡命キューバ人らと練っていたものかもしれない。

・ただ、暗殺事件に直接キューバ人関係者が関わっていた証拠はないが、何らかのバックアップをする計画だったのかもしれない（逃

走ルートの確保など)。

このように、ケネディ暗殺事件には陰謀ありと永い間言い続けられてきましたが、様々な公文書が公開される中、オズワルドの大統領への狙撃はほぼ確実であろうと思われます。そうなると、単独犯行説で決まりかと言えばそうでもありません。前述の通り、オズワルドと亡命キューバ人グループとの繋がりは決して否定できず、事件前後に何らかのサポートがあっても不思議ではありません。新たな資料の公開を待ちたいところです。そして最後に一言。いまだに解明できていない事柄があります。それはジャック・ルビーとは何者なのかということです。

〈参考文献〉
『ビジュアルストーリ　世界の陰謀論』　マイケル・ロビンソン　ナショナルジオグラフィック社
『ケネディ暗殺　ウォーレン委員会五十年目の証言』　上下　フィリップ・シノン　文芸春秋
『アメリカ陰謀論の真相』　奥菜秀次　文芸社